

平成23年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立会瀬小学校 教諭 根本 きく枝

1 派遣期日 平成23年8月9日（火）

2 研修先

- (1) 会場名 グリーンホール相模大野
所在地 神奈川県相模原市南区相模大野4-4-1
- (2) 会場名 相模女子大学
所在地 神奈川県相模原市南区文京2-1-1

3 研修内容

テーマ「一人一人が生き生きと輝き、豊かに生きる支援のあり方」

(1) オープニングコンサート

生まれつき視覚にハンディのあるトロンボーンソリスト、鈴木加奈子氏によるオープニングコンサート。盲導犬とともにステージにあらわれ、盲導犬は鈴木加奈子氏の足下に座り、ずっとおとなしくしていた。この盲導犬と出会ったことで行動範囲が広まり、一人でいろいろな所へ出掛けられるようになった。

鈴木加奈子氏は、1979年相模原市に生まれ、中学校時代に吹奏楽部に入りトロンボーンと出会う。高校時代に演奏活動をはじめ、「音楽を通してたくさんの人と出会いたい。トロンボーンのことをもっと知ってほしい。一番大切にしたい場所は相模原だから、これからも相模原を中心として活動していきたい。」という考えのもと、現在、全国各地で演奏活動を展開している。作曲も手がけ、テレビでも活躍している。

(2) 記念講演 ライブ&トーク「自閉症のきみの心をさがして」

～自閉症児なおとが教えてくれた大切なこと～

講師は、シンガーソングライターのうすいまさと氏。自閉症、アスペルガー症候群、ウエスト症候群の3人の発達障害児の父親である。

うすいまさと氏は1974年相模原市で生まれ、高校時代にバンドを結成し、プロのミュージシャンの道を志す。1994年ソロ活動を始め、ラジオやテレビで活躍する。2008年思いを伝えられない子どもの心を歌にして、発達障害啓発ライブ&トークを始める。2009年より、大学の非常勤講師として学生や社会人学生へ講義したり、福祉関係や行政などに招かれたりしている。

自閉症児の行動には、すべて理由がある。自分の気持ちをうまく伝えられない、友だちとうまく関われない。そんな子どもたちにも声にならない思いがある。たとえば絵で表わすなど、その子の得意なことで表現させてあげる。成功体験が自信につながる。通常の学級で学ぶことも多く、共に学び共に育つことを可能とするインクルーシブな教育が親の願いである。

(3) 分科会 教科・領域を合わせた指導(生活単元学習)

①提案発表「自己肯定感を高める生活単元学習の指導の工夫」

～エコキャップによる社会貢献活動を通して～

茨城県神栖市立太田小学校 糸川 由美子 教諭

エコキャップを集め、これをワクチンに替えてアフリカの赤ちゃんの命を救う社会貢献活動を生活単元学習に取り入れた研究である。平成21年度、22年度、23年度の3年間の継続研究である。

特別支援学級の児童が「キャップ集め隊」を結成し、全校活動へ広げていく中で、次第に全校児童のリーダーとなっていく。ペットボトルのキャップが一つでも多く集まるように、校内放送やポスターによる広報活動を行った。この場面では、どんな活動をするのかを自己決定し、児童の特性が生かされることができた。さらに、「キャップ集め隊」への参加を全校にも呼びかけ、特別支援学級の児童がリーダー的存在で活躍している。集めたキャップを数える活動では、試行錯誤の結果、カップラーメンのプラスチックケースが便利であることがわかり、児童は力を合わせて作業するすばらしさを体験することができた。

校外活動では、波崎柳川高校生が「エコキャップ運動の展開の仕方」についてインタビューに来たことがきっかけで、交流が始まった。夏休みの「4年生の算数学力向上プロジェクト」での補助学習員、キャリア教育としての小学校教育の実習、陸上部員による6年生の陸上大会のコーチなど、特別支援学級と高校生の交流が全校をあげた学校間交流に発展していった。さらに、保育園児やデイサービスでのお年寄りとの交流にも発展していった。

このような活動を通して、児童にコミュニケーション能力の向上や自己有用感の高まりが見られた。

②提案発表 「一人一人の生活する力を育てる指導」

神奈川県平塚市立みずほ小学校 白石 亜美 教諭

児童の実態から、「達成感」「仲間意識」「自己表現」を目標にした生活単元学習の研究である。成功体験を積むことで自信をもつこと、子ども同士と一緒に活動することの楽しさを味わうこと、自分の思いや考えを他者に伝えることの3つを目標に、「ブレーメンの音楽隊」の影絵劇を行った。

台本読み、振り付け、衣装作り、合奏、ダンス、招待状作りと様々な活動を取り入れた学習を行うことができた。そして、授業参観日に劇の発表を行い、家族に褒められたことで自信がついた。さらに、「交流学級の友だちにも見てもらいたい」という児童の希望で、交流学級でも発表することができた。

成果として、仲間意識が育ったこと、表現力が向上したことがあげられた。

4 感想

オープニングコンサートでは、生まれつき視覚にハンディのある鈴木加奈子氏のトロンボーンのあたたかみのある音色に感動した。また、鈴木加奈子氏の足下でゆったり構えている盲導犬に見入ってしまった。お互いを信頼し、強い絆で結ばれているなど感じた。

うすいまさと氏のライブ&トークでは、日々の中のエピソードを通して、発達障害のある子を持つ親からのメッセージを聞くことができた。教師として、どのようにかわっていったらいいのか、ヒントになった。

分科会では、身近にあるものを使っての教材・教具の工夫、教師や保護者の協力、校内での活動の発展、地域への情報発信など、提案発表をした教師のアイディアがすばらしいと思った。

今回の研修で学んだことを、今後の教育実践に生かしていきたい。